

## ご挨拶

野呂恵子区議を御支援、御指導くださった皆様へ、ここに大変悲しい知らせをお伝えしなければなりません。野呂恵子区議は12月22日、病に倒れ永眠いたしました。享年67歳でございました。

野呂恵子が大田区で区議に初当選したのは、1999年4月、今から23年前のことでした。地盤・看板・鞆もないなか、平和を求め、区民が安心して暮らせる区政を実現したいと訴えたことを、大田区民の皆さんが支持して下さいました。そして、一昨年は6期目の当選を果たすことができました。これはひとえに野呂恵子区議を支持し、御支援くださった皆様のお力添えの賜物と深く感謝申し上げます。彼女はこれまで病と向き合ってきたが、それをおくびにも見せず、精力的に区議活動を続けてまいりました。ただ任期を満了できなかったことが悔やまれたことと思います。しかし、12月の最後の議会では、車椅子で酸素吸入をしながら登壇し、介護保険について渾身の力を振り絞って質問し、区議としての任務を全うした姿は見事なものでした。自らも介護を利用する身として、介護を受けられる側も介護する側も守られる介護制度のあり方を求めました。最後まで、区民の声を区政に届ける思いが込められたものでした。彼女は「すべての政策は命をつなぐために」と訴え続けてきました。格差が広がる社会の中で、区民が安心して暮らせる区政を作ることにはますます重要になって来ました。何より区民の声に迅速に動き、対応し、私たちの代表として孤軍奮闘しておりました。病にありながら、その力はどこから湧いてくるのかと思うほどよく頑張りました。これは皆様の絶大なる野呂恵子への信頼のおかげであり、彼女もその要望に応えたいという思いにあふれたものだったと思います。春を待つことなく、道半ばにして別れを告げなければならないことはどんなに心残りだったことでしょうか。私共は、その志を無にすることなく引き継いで参りたいと思います。長い間の御支援、御指導、誠にありがとうございました。

私共は、野呂恵子区議の遺志を受け継ぎ、後継者を決め、皆様に御報告致したいと思っております。引き続き御支援、御指導くださいますようお願い申し上げます。

野呂恵子区議の最後の通信を御一読くだされば幸いです。

2021年12月26日

緑の党党首 對馬テツ子